

「2040年にかけて求められる視点」の分類例

- 第2回総会(平成30年12月18日)の資料1及び資料2「分野別ヒアリングを踏まえた課題・取組等の整理」の「2040年にかけて求められる視点」を抜粋し、以下のとおり整理した。
- 追加ヒアリング及び現地調査を通じて明らかとなった視点についても、追記してはどうか。
- この分類例に限らず、「2040年にかけて求められる視点」について、分野横断的に整理する視点として、どのようなものが考えられるか。
- 人口構造の変化のあらわれ方は地域によって異なるため、地域ごとの状況を見ながら議論する必要があるのではないか。

	共通的な視点	目標(施策の方向性を含む)			施策(ある程度具体的手法が明確なもの)		
ひとに着目した対応	「働く人」を増加させる	出生率底上げ	高齢者の就労環境の整備	就職氷河期世代の就労環境の整備	外国人材の受入	外国人研修生の受入	
		介護人材確保	高齢者雇用の前提となる健康寿命延伸	スタートアップ企業による雇用の創出			
		企業の新陳代謝の向上					
	地域間のひとの交流、協力、移動を促す	地方部への若い世代の定着	医師偏在解消	圏域内の資金循環の向上	地域おこし協力隊強化	徴税部門広域化	若いうちからの地域間交流(国内留学)
		東京一極集中の抑制	医療・介護についての自治体間連携(専門職の確保等)	地方部への女性の定着	都道府県の技術職による市町村支援	高校・大学と地域の関係強化による地元定着・Uターン	行政運営に必要な専門的ノウハウの共有
		広域でまちづくり・インフラ専門人材確保			発災直後から復興までの広域職員派遣		
	公共私の中のひとの交流、協力、移動を促す	人材交流の活発化	自助・共助による防災活動の促進	民間からまちづくり・インフラ専門人材確保	地域における支え合いに住民が参加する仕組み	治安分野での民間関係機関との連携	国公私を通じた大学の連携
		地域包括ケアにおける多職種連携	地元企業・都心の企業との連携		民間等の専門人材の活用	見守り、配食等生活支援	
	働き方改革、効率性向上	治安分野での新たな課題に対応する執行力の確保	農林水産関係職員の減少等を見据えた農政推進体制の検討		教員の働き方改革、専門スタッフの制度化	食料生産維持、荒廃農地防止のための担い手農業者への農地の集積	
	その他	健康寿命の延伸による医療・介護需要の抑制	避難者・帰宅困難者対策	避難行動要支援者の避難支援	文理両方を学ぶ高大接続改革		
海外の農産物需要への対応							
インフラを通じた対応	インフラに関する地域間協力、配置見直し	都市のコンパクト化と合わせた郊外居住者の生活基盤の確保	大規模災害時の被災者の住まいの広域的な確保	防災の観点からの一極集中是正	小中学校の適正規模・配置	居住の誘導と交通の組合せ	消防の広域化と消防署所の再配置
		ゆとり空間のあるまちづくり			地方部への特色ある学校や高等教育機関の配置	施設・インフラ集約	一定規模の都市を含めた広域連携
					治安分野における拠点・機能の統合等による事案対処能力の確保	都市計画の広域調整	高台移転と中心部への都市機能の集約による減災と地域活力維持の両立
	インフラに関する公共私間の協力を促す	地域コミュニティでの土地利用、官民連携	福祉的ケアが可能な避難所の確保		民間との連携による避難所確保	企業・大学連携でインフラ管理	住民協力によるインフラ維持
	インフラの管理手法の見直し	インフラの予防保全、トータルコスト縮減	適切なメンテナンスによる農業インフラ維持		一時的な児童数増に対応した学校設置期間の弾力化	スクールバスの多目的化	病床の機能分化・連携
	その他	農業振興や国土保全等のための農村地域の保全	避難所のバリアフリー化		学校施設の更新を契機としたまちづくり		
技術を通じた対応	MaaSによる交通効率化	自動運転の実現	中小企業のIT化	情報処理共同化、様式標準化	ロボット等による医療・介護の生産性向上	捜査の集中化・広域化(非対面型犯罪対策)	
	スマート農業の実現			AI等による個別最適化学習	ロボットやドローンによるインフラの点検・診断	AIやドローン等の活用	
				地方部でのSTEAM教育の意図的な強化	国・自治体間の平時からの防災情報等の共有	予測的ポリシングの可能性	